

横浜開港資料館 平成 30 年度第 4 回企画展示

# 浮世絵でめぐる横浜の名所



横浜海岸図會 万延元年(1860) 2代広重 当館所蔵

安政 6 年(1859)の開港直後に作成されたもの。

左下に位置する台町の茶屋で女性が覗く遠眼鏡の視線は、中央に位置する開港場へと向けられている。

## 1. 展示会期など

会 期: 平成 31 年 2 月 2 日(土)～平成 31 年 4 月 21 日(日)

会 場: 横浜開港資料館 新館 企画展示室

開館時間: 9:30～17:00(入館は 16:30 まで)

2 月 22 日(金)、3 月 29 日(金)は展示室のみ 19:00 まで開館(入館は 18:30 まで)

入 館 料: 一般 200 円、小中学生 100 円

休 館 日: 月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)

主 催: 横浜開港資料館

共 催: 横浜市教育委員会

後 援: 朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、  
毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk

## 2. 展示趣旨

平成 31 年(2019)は、安政 6 年(1859)の横浜開港から 160 周年にあたります。本展示はこれを記念して、日本人の絵師によって描かれた浮世絵を題材に、開港により新たな「名所」となった「開港場・横浜」の風景について、名所を見る視線に注目しつつ、紹介します。

開港場・横浜が新たな名所となった理由は、江戸から一日行程の範囲、かつ当時の主要な陸路であった東海道に近接する地点に、異国の人々と彼らがもたらしたさまざまな物品や風俗を見聞できる場所が成立したことによります。また、東海道五十三次が名所として浮世絵の題材になっていたことが前提にあると思われます。

本展示では、こうした近世後期から近代初頭における「名所」としての横浜のあり方を、①神奈川宿台町からの眺望対象の一つであった 19 世紀前半、②開港場全体が一つの名所となる開港直後、③浮世絵に描かれた視線が開港場の内部に入り込み、開港場やその周辺に存在する個別の地点がそれぞれ名所化していく段階の、3 つに区分して紹介していきます。

### 3. 展示構成

- 1 神奈川宿台町から横浜への視線
- 2 東海道から開港場へ
- 3 開港場の賑わい
- 4 横浜名所あれこれ
- 5 吉田橋と鉄道

### 4. おもな展示資料（全展示数 約 120 点）

・ 神奈川台石崎楼上十五景一望之図  
安政 5 年（1858）初代広重 当館所蔵



開港直前に作成された東海道神奈川宿の台町からの眺望を描いたもの。「十五景」にまとめられた眺望対象地の中に、「横浜漁火」、「洲乾雪」が含まれている。

・ 神名川横浜新開港図  
万延元年（1860）貞秀 当館所蔵



開港直後における本町通りの賑わいを描いたもの。本町通りはメインストリートの一つであり、さまざまな人々が往来している。

### 5. 展示関連事業

#### 展示関連講座

展示担当者によるテーマごとの解説講座です。

第 1 回 2 月 16 日（土）「神奈川宿台町からの眺望」

第 2 回 3 月 2 日（土）「開港場横浜と横浜双六」

第 3 回 3 月 16 日（土）「吉田橋と鉄道」

時間：各回 14:00～15:00 会場：当館講堂 受講料：各回 200 円 定員：当日先着 80 名

#### 展示説明

展示担当者による展示の概要説明です。

第 1 回 3 月 9 日（土）、第 2 回 3 月 21 日（木・祝）、第 3 回 4 月 6 日（土）

時間：各回 14:00～15:00 会場：当館講堂 定員：当日先着 50 名

各回とも当日の入館券が必要です。

#### 展示案内

展示担当者による企画展示室案内です。

第 1 回 2 月 11 日（月・祝）14:00～、第 2 回 2 月 22 日（金）18:00～

第 3 回 3 月 29 日（金）18:00～、第 4 回 4 月 20 日（土）14:00～

各回 30 分程度で、事前申込不要です。

#### 関連図書『神奈川横浜二十八景之内』の販売

A4 判、16 頁、400 円（予価・本体価格）

お問合せ先

横浜開港資料館

副館長・展示担当

齊藤 司

TEL 045-201-2100

\* 画像データをご要望の場合は、田中（広報）へご連絡ください。